

派遣報告書（報告者；樋口俊司）

大会名	令和 6 年度国民スポーツ大会第 44 回九州ブロック大会
開催地	宮崎県宮崎市、都城市
日 時	令和 6 年 8 月 24 日（土）～ 25 日（日）
担当ゲーム 1	（成年男子） 熊本県 vs 長崎県
クルー	CC：小川隆三（宮崎） U1：西崎拓哉（福岡） U2：樋口俊司（大分）
担当ゲーム 2	（成年女子） 福岡県 vs 熊本県
クルー	CC：樋口俊司（大分） U1：小川隆三（沖縄） U2：水間光亮（鹿児島）
（担当ゲーム） Pre-Game Conference	
・事前研修を踏まえた自らの課題の整理 ・Patient Whistle, Cadence Whistle を意識し、Primary-Ref の判定を尊重し、クルーとしてゲーム運営することにチャレンジすること ・help-Def の primary について ・役割の確認、各チームの情報共有	
（担当ゲーム） Post-Game Conference	
（担当ゲーム 1）講師：上田篤拓 氏 ・Patient Whistle とは「シュートが入らなかった」→「Foul Call」ではない。 ・help-Def はすべてが L の Primary ではなく、C-Pri もあるということ（※新シーズン TL 研修で行う） ・TF コールは自分でできたのでは？ →自分の中ではコールする予定。「タイミング、再開方法 etc」考えたらタイミングを逸してしまった。 ・UF の確認。C3 でコールしたが、C4 が適切ではなかったか。No call でも O。ケースとしてはよくあるもので、笛にしたら UF にせざるを得ない。TL を担当すると UF2 回で次のゲームは出場停止となるため、その考えを持ってほしい。 ・もっとこうした方がよいというコメントだが、できていることも多いことをは認識をしてほしい。より高みを目指すという意味で捉えてほしい。 （担当ゲーム 2）講師：松本隆志 氏 ・3 人でよくゲームコントロールできた印象。 ・笛を外す行為が多い。工夫や考え方を変えた方がよい。 ・Presentation を意識し、自分がだした判定に色を付けてほしい。	

今大会に参加しての感想など

この1年間取り組んできた課題「Patient/Cadence」「Communication」を発揮し、事前の ZOOM 研修で落とし込んでいただいた「CCM の発揮」ができればと研修にのぞんだところでした。1 ゲームを通じて「Patient/Cadence」を発揮できないメンタル面の弱さや事実確認を行ったうえでのクルー内の「Communication」がまだ弱いと自己分析しています。ただ取り組む方向性は現在 JBA の指導に沿っていると実感できたことはプラスに捉え、改めて県内で積み重ねを継続したいと思います。

また、プレゼンテーションについては TL を意識しなければ、置いていかれると危機感を感じました。判定だけでなく、ゲーム中に起こるすべての事象に対する弱さがありました。例えば、コーチとの会話での姿勢や表情、さらには対応が TL を意識したものになっているか。今の 20 代は B リーグが当たり前に存在し、B リーグを担当する Ref の姿をみて育っており、その世代と肩を並べコートに立つことは、どん欲に新しいものを取り入れていかないといけないと敵わないと本大会を通じて痛感しました。

今年度は佐賀国スポ、来年度は鹿児島全中、3 年後は宮崎国スポが予定されています。九州の一員として大会成功に少しでも寄与できるように成長を続けたいと思います。このような機会を頂きました大分県協会、九州・県審判委員会の皆様や職場・家族に感謝しております。

宮崎県の皆様には期間中大変お世話になりました。3 年後の国スポに向け、意識の高さを垣間見ることができました。本県も負けずに頑張りたいと思います。